

2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年9月22日
- 事業名 : 山梨県下における包括的なフードバンク支援体制構築事業
- 資金分配団体 : パブリックリソース財団
- 実行団体 : フードバンク山梨

① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況*
1 新たな中核的フードバンク（山梨フードバンクセンター）が設置され、県内ネットワークのハブとなっている	①当法人以外の連携・地域フードバンクの数	15 団体	2024年3月末	7 団体	2
	②山梨FBセンター（拠点施設）の設置・運営	設立し、運営を円滑に継続	2024年3月末	2022年12月完成予定	2
	③事務局・有給職員	12 人	2024年3月末	12 人	1
	④研修（テーマ別）の実施回数	2回/年 × 4テーマ = 8回/年	2024年3月末	広報2回、地域FB支援2回	3
	⑤フードバンクITシステムの構築	構築・運用開始	2024年3月末	2022年7月、事務所にて試験運用中	1
2 地域ネットワークが形成され、構成団体との連携・協議が行われている	①子どもの貧困対策連携協定・締結市町村数	20	2024年3月末	11	3
	②社会福祉協議会	20	2024年3月末	13で変わらず	3

	③企業、団体、NPO等	30	2024年3月末	212社	
	④ネットワーク会議の開催回数	8回/年(2回(部会毎)/年×4部会)	2024年3月末	ボランティア部会1回、行政部会1回、全体会1回	3
3 食品・物品を届けられる地域が拡大し、支援できる世帯が増え、供給量が増加	①当法人以外の連携・地域フードバンクの数	15	2024年3月末	7団体	2
	②子どもの貧困対策連携協定・締結市町村数	20	2024年3月末	11市町村	3
	③人材育成研修(地域FB運営、相談支援等)	8回(4テーマ×2回/年)	2024年3月末	4回	3
	④フードバンクITシステムの構築	構築・運用開始	2024年3月末	2022年7月、事務所にて個人寄贈者への入力を試験運用中	2
4 地域ネットワークに自治体の福祉課等や社会福祉協議会等が含まれ、連携している	(No.2の指標(行政関係)と同じ)	(No.2の①、②と同じ)	2024年3月末		3
5 中核的フードバンク(山梨フードバンクセンター)の食品・物品の調達量の増加(含・食品ロス削減量の増加)	①大口企業からの寄贈量(パレット単位)	224トン/年	2024年3月末	81トン/2021年度	3
	②個人・団体・一般企業からの寄贈量	176トン/年(地域FBが独自に集めた食品は含まず)	2024年3月末	96トン/2021年度	3
6 中核的フードバンク、及び連携する地域フードバンクにおける資金調達額の増加	資金調達額(合算)	100,000千円(2023年度)	2024年3月末	・110,192,853円(2021年度経常収益)	1

*進捗状況：1計画より進んでいる、2計画どおり進んでいる、3計画より遅れている、4その他



4/6 ボランティア部会 (小笠原倉庫)



4/26 行政部会 (Zoom 開催)



7/15 活動報告会 (Zoom 開催)



ITシステムによる寄贈者登録



9/8 センター建設現場 (倉庫部分)



棚搬入



スクールフードドライブ



フードドライブ



夏のフードバンクこども支援プロジェクト



② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
3.課題がある
2.アウトカムの状況
A:変更項目 <input type="checkbox"/> 変更なし <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
① ロッカーを介して食品を提供する「ロッカープロジェクト」を2022年3月から実施。事前申し込みにより24時間受取可能。特に緊急時のSOSに対し効果的。課題は、当事者が事務所まで出向くこと。新センター完成後は、冷凍冷蔵品にも対応したい。
② コロナ禍や物価高の影響で生活困窮した方々を支援する「つながるスマイルプロジェクト」の充実を図っている。

③ 広報（※任意）

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）

テレビ出演

日時	放送局	内容
2022/04/13	山梨放送	アンケート結果記者会見
2022/04/13	テレビ山梨	アンケート結果記者会見
2022/4/22	NHK 甲府	NOP「フードバンク山梨」乳幼児いる世帯にミルクなど提供へ
2022/4/27	NHK 甲府	ウクライナから避難の2人 山梨大学とNPO法人が支援
2022/04/27	テレビ山梨	「ウクライナにいる両親のことを毎日心配」避難の兄弟 山梨大学とフードバンク山梨が受け入れ
2022/05/	NHK	アンケート調査結果について（1日300円で）
2022/07/14	NHK 甲府	センター建設
2022/07/19	FM 富士	韮崎北杜青年会議所 寄付金贈呈式
2022/08/09	テレビ山梨	甲府市の宝飾メーカーのクロスフォーが夏休み中の生活支援にとフードバンクに食料などを寄付

2022/08/20	日本テレビ	「世界一受けたい授業」で子どもの貧困を取材
2022/08/25	NHK 甲府	8/10 取材分

4/13 記者発表の写真：コロナ禍アンケート調査（NHK 甲府、山梨放送、山梨日日新聞等）。保護者と子どもの2種類実施。



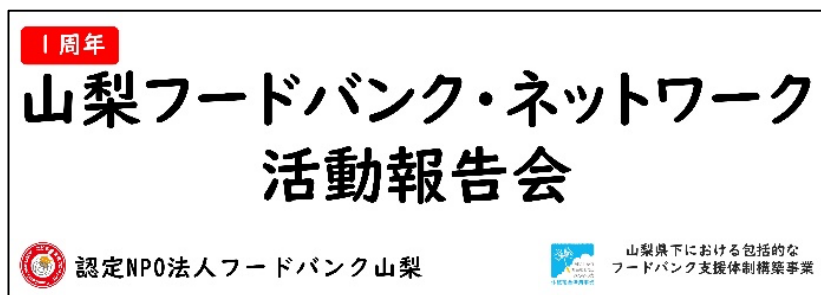
新聞記事

日時	新聞名	掲載内容・掲載タイトル
2022/04/14	山梨日日新聞	食費1日300円未満32%
2022/04/15	朝日新聞	コロナ禍「食費削った」が8割
2022/04/16	毎日新聞デジタル	一日の食費「1人300円未満」が3割 山梨、支援受ける子育て世帯
2022/04/21	アットプレス（デジタル）	調査結果公開 食費1日1人当たり300円未満32%という実態が浮き彫りに
2022/04/26	山梨日日新聞	キーウから山梨に避難 兄弟2人山梨大など支援
2022/04/28	山梨日日新聞	避難の兄弟 支援に感謝
2022/04/28	読売新聞	避難兄弟 官学民で支援へ
2022/04/28	毎日新聞	避難の20代兄弟支援
2022/05/02	朝日新聞	ウクライナ避難民県内初の受け入れ
2022/05/03	毎日新聞	子どもの学習支援 学校、家以外の「居場所」を（清水そらさん）

2022/05/04	産経新聞	一日の食事代300円未満が3割
2022/05/05	SankeiBiz	山梨の困窮子育て世帯 食事代1日300円未満が3割超
2022/06/11	山梨日日新聞	フードバンク山梨 夏休支援へ
2022/07/07	朝日新聞	2022 参院選 食料寄付昨年の25%
2022/07/07	山梨日日新聞	生活困窮「教育の格差生む」
2022/07/13	山梨日日新聞	子育て世帯へ食料支援 笛吹市夏休み控え発送
2022/07/13	山梨日日新聞	フードバンクに集めた食品寄贈 パルシステム山梨
2022/07/20	山梨日日新聞	余剰食品を募りフードバンクへ 中央市職員互助会
2022/07/24	山梨日日新聞	フードバンクの支援状況を説明 甲府で活動報告会
2022/08/04	山梨日日新聞	韮崎北杜 JC123 万円を寄付 フードバンクに
2022/08/06	山梨日日新聞	フードバンクにカップ麺寄贈 ネットトヨタ山梨
2022/08/12	朝日新聞	死に場所探し、山梨へ。来月、無料食料を配布

2.広報制作物等

- ・第23回フードドライブチラシ (6/1~6/30)
- ・活動報告会 (7/15) チラシ・横看板



- ・ 8月9日 夏休み親子イベント（親子で賞味期限チェックを体験）

しょうみきげん
賞味期限チェックをやってみよう

賞味期限って？
その食品をおいしく食べられる期限のこと！

賞味期限の表示は大きく分けて2つあります！

① ○月○日と日付のあるもの。
② ○月 だけのもの。

・①は、その月の○日までが期限の日と教えてあげています。
・②は○月中が期限と教えてあげています。

これから行う賞味期限チェックとは、
期限ごとに食品を分ける作業です。

フードバンク山梨

① 段ボールの中から食品をとる。

段ボールの中には多くの食品があり、その中からいくつか食品を選んでください。

例)お菓子2つ

フードバンク山梨

どこに書いてあるのかなあ？

② 選んだ食品の賞味期限を確認！

1 期限の数字の
→ 9月 11日 まで
2 袋がやぶられているもの
期限の書かれているもの
↓
D-BOXへ

フードバンク山梨

③ 食品の種類と期間が当てはまる
青い箱の中に入れる。

手に取っていた「お菓子」は9月と11月だったので「お菓子」BOXの「9～12月」へ入れてください

この作業を別の食品でも行います。

「お菓子」BOX

フードバンク山梨



3.報告書等 無し

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／ 外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	事業全般	城野仁志	副理事長
内部	事業全般	齊藤加代子	事務局長
外部	事業全般	萩原祐基	萩原会計事務所副所長、公認会計士・税理士
外部	事業全般	米山広明	全国フードバンク推進協議会・代表

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
1) 当法人を要とする県内フードバンク連携組織（山梨フードバンクセンター）が、食支援事業を円滑、効果的に協働で遂行するネットワークを形成	①食支援団体の構成員数	70 団体	2024 年 3 月末	・ 同意書締結企業 7 2 社。事業開始後 7 社追加。
	②情報共有・連携強化のための会合実施回数	8 回／年	2024 年 3 月末	・ 昨年 9 月に行った山梨フードバンク・ネットワークの設立総会の後、今年の 2 月と 7 月に各 1 回「活動報告会」を開催し、情報共有や連携強化を行った。 ・ 今年 4 月に、行政部会とボランティア部会の打ち合わせ会や研修を各 1 回行った。

2) 地域の受益者ニーズに合った食品・物品等の配送網が形成・供給されている	①配布先世帯数	4,000世帯	2024年3月末	・2021年度の配布先・延べ世帯数は1万世帯を超えた。 支援1世帯に対する年間・平均支援件数を5件と仮定すると、年間の実支援世帯数は約2千世帯となる。
	②食品配布量	400トン	2024年3月末	・2021年度の当法人による配布量は177トン ・地域FBが独自に集める食品は、未だ1t未満と少ない
	③地域フードバンク団体の数（配送等を分担）	15団体以上	2024年3月末	・現時点で7団体
3) 支援を必要としている世帯を公的支援につなげるための、公的機関との連携ができています	①自治体や社会福祉協議会の構成員数	35機関	2024年3月末	・市町村：11（27市町村中） ・社会福祉協議会：13（27市町村協議会中）
	②公的支援につなげた件数	332件	2024年3月末	・2021年度に市町村や学校等の支援機関と打ち合わせを行った件数は延べ518件であった。
4) 食品・物品の調達機能が強化され、地域の受益者ニーズに合った食品・物品の必要量を調達できている	①食品や物品を寄付した企業等の数	企業1,000社、個人7,000人	2024年3月末	・2021年度の延べ寄贈企業数は416社 ・延べ寄贈個人数は1158人
	②食料や物品の調達量	企業224トン、個人176トン	2024年3月末	(2021年度) ・企業：104トン ・個人：73トン
5) 資金調達力の強化により、増大する受益者ニーズに応える経営基盤が構築できている	受取会費、受取寄付金、受取助成金等(助成金、補助金、委託金)の合計額	1億円	2024年3月末	・110,192,853円(2021年度経常収益) ・40,335,214円(2022年4月～8月17日迄の会員寄付金実績)



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
(1) 短期アウトカム：①、③、⑤ (2) 短期アウトカム：②、④	(1) 現時点(中間年)では、ほぼ順調に進捗している (2) 支援世帯数、食品等提供量ともに目標の約半分弱であり、さらなる取り組みの強化が必要	(1) 山梨フードバンク・ネットワークの創設や活動報告会の開催、必要な自主財源の確保については、中間時での目標を概ね達成している。 (2) →下記の「評価結果の考察」に記載



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</p> <p>と自己評価する</p>	<p>・食品収集・提供量の増大が必要</p> <p>→コロナ禍や物価高騰に影響で食品等の寄付が伸び悩む中、地域FBの調達力強化や新FBセンター(2023年1月・運用開始予定)を活用した冷凍・冷蔵品の取扱量増加や諸業務の効率化等を推進していく。</p> <p>・新FBセンターの運営開始後はスタッフが1か所で勤務できるようになり業務の効率化が期待できる。</p> <p>このため、これまで以上に地域FBへの支援強化や新たな拠点を増やしていく働きかけを積極的に行っていく。</p>

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の 適切性	①短期アウトカムNo.2 (配布先世帯数、食品配布 量、地域F B団体の数) ②短期アウトカムNo.4 (食品等の調達量など)	①、②ともに目標の半 分弱に留まっており、 更なる取り組みの強 化が必要である。	・特に地域F B体制の一層の強化が必要。 但し、地域F Bとの連携では、コロナ禍や物価高騰で苦しむ困窮 者・大学生への支援を「つながるスマイルプロジェクト」で行う中 で、最近では280世帯以上への支援を行えるようになった。それぞ れの地域FBが自立して活動し、FBYと連携していく方向を目指す。 ・近年のコロナ禍や物価高騰の影響で食品等の寄贈量が伸び悩む 中、寄贈量を増やすための重点的な取り組みが必要である。 ・企業への広報として、セミナーの開催など。 ・コロナ禍やウクライナ情勢による物価高騰に対して、個人から寄 贈を募るには限界がある。今後は法人への取り組みに舵を取り、法 人寄贈の仕組みづくりを行う。
実施をとおした 活動の改善、 知見の共有	①短期アウトカムNo.1 (県内F Bネット連携強化) ②短期アウトカムNo.3 (公的機関との連携強化)	①情報共有や連携強 化のための会合実施 回数は不十分 ②協定締結市町村が 事業開始後1つ増え た(北杜市)のみで、 不十分	①当初、最終年度では年30回ほどの会合回数をめざしたが、これま でに外部の関係者に呼びかけての 全体会議 回数は数回程度と未だ少 ない。会議に参加していないネットワーク団体へのきめ細やかな連 絡を進めたい。 本事業の推進を図るうえでは、全体会議だけでなく個別の関係者 との協議や助言を積み重ねることも重要であり、両者をバランスよ く実施することをめざしたい。 また、各テーマ毎の取り組み状況や提案・協議等を参画機関に電 子メール等で適時適切で伝える取り組みを強化したい。

組織基盤強化・ 環境整備	①短期アウトカムNo.5 (資金調達力の強化)	①2021年度で、最終年 次の目標額を超える 財源を調達した。 また、山梨F Bセン ターの完成目処(今年 12月中)もついた。	①2021年度の経常収益・計は約1億1千万円余と、最終年度の目標 額(1億円)を超える額を確保した。 但し、この額には山梨フードバンクセンター建設のための寄付金 (約2千7百万円)が含まれているため、これを差し引くと約8千 3百万円となる。 地域F Bの資金調達力を強化することも、重要な課題である。
-----------------	----------------------------	---	---

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

- ・行政等との連携：特例認定 NPO 法人富士の緑とフードサポート（富士吉田市、富士吉田社会福祉協議会、富士吉田市青年会議所）
- ・独自に食料支援：特例認定 NPO 法人富士の緑とフードサポート、協力団体ふじざくら
- ・独自にフードドライブ開催：特例認定 NPO 法人富士の緑とフードサポート
- ・助成金申請：「NPO 法人ぐんないや-織 syoku-」2022年度 ドコモ市民活動団体助成事業に応募し、2次審査に進む。
- ・NPO 法人化：「耕運院」が「NPO 法人ぐんないや-織 syoku-」、「にららん♪食堂」が「NPO 法人にららん♪」に法人格を取得した。
- ・食品倉庫の確保：特例認定 NPO 法人富士の緑とフードサポート

③ 事前評価時には想定していなかった成果

・特例認定 NPO 法人富士の緑とフードサポートは、1985 年に任意団体「富士の緑を育てる会」として設立され、2021 年に特例認定 N P O 法人化し、自然保護に加えて食料支援団体として活動を開始した。フードバンク活動では、企業建物の一部を借り受け、事務所と広い**食品倉庫を確保した**。行政等との連携を進め、**フードドライブ開催、配布会チラシ作成・配布**を推進。配布会では、建物前に受付を出し、独自に調達した生鮮野菜なども提供している。利用は母子家庭が多い。ホームページの決算を見ると人件費が計上されずボランティアで活動している。また、法人として組織運営がされていて、安定して継続的に活動できている。行動力があり、今後は郡内地域でのハブの役割が期待される。



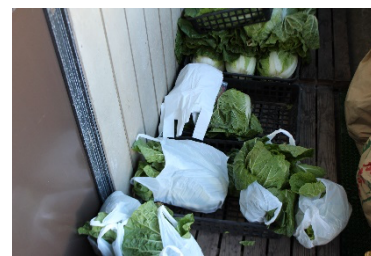
外観；右側 1 階部分を利用



内部：事務所



内部：倉庫エリア



冬に白菜を調達

・「協力団体ふじざくら」は、富士河口湖町で海鮮居酒屋「あぶり亭」を営む倉澤氏が代表である。食品配布は、居酒屋を休業して店舗内で行う。配布当日は、食品を座敷に保管して受渡す。倉庫は無いが、専用車・スタッフジャンパー・名刺を準備し、対外的に活動をアピールする。利用者は、スマホでの QR コード入力が高いため、聞き取って紙媒体で情報を管理している。（9月の食品配布会では、近隣の大学生からの利用申し込みが約26人に急増した）また、菜園で野菜を作り、支援に利用している。フードドライブの際は、郡内地域の拠点になっており、企業等からの寄贈を受けた。



居酒屋入口



食パン、和菓子を確保



店内の様子



店舗内で手渡し



フードドライブ寄贈品



活動時のジャンパー



専用名刺



団体名入り車両



菜園の様子

・「よりそい北杜」は、北杜市在住の夫妻が始めた任意団体。環境、食の安全、子育て支援、地域コミュニティ作り、国際多文化交流等を活動分野とし、積極的に地域で困窮する母子世帯や高齢者に関わっている。また、地元の「やまなし大武川農場」から「はねだしほうれん草」の定期的寄贈を受け、支援先に提供している。自前の倉庫や食品配布会場は、所有していない。今回初めて、公民館を借りて地域フードバンク団体として活動することになった。賛同者を募るため、「暮らしささえあいネットワーク よりそい北杜」のチラシを作成し、地域に根付いた活動を目指す。フードバンクとして、ハード面の整備はこれからであるが、熱意と実行力は目を見張るものがある。



チラシ



寄贈される、ほうれん草



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っていると自己評価する</p>	<p>・本事業の主たる短期目標（2023年度：食料提供量→400トン、配布先世帯数→4,000世帯）に対し、2021年度の達成度は約半分ほどであり、来年度に目標を達成するためには、これまでの実施方法の課題をしっかりと把握し、改善していく必要がある。</p> <p>潜在的に食料支援を必要とする世帯数と支援に必要な食品寄贈重量を試算。 山梨県の生活保護世帯の3倍を潜在的に食料支援を必要とする世帯数と仮定。</p> <p>・活動エリアにおいて食料支援を必要とする潜在的な世帯数：17,551世帯</p> <p>・支援世帯1世帯に対する、年間の平均食料支援重量：50kg</p> <p>・活動エリアにおいて生活困窮世帯への支援に必要な食品重量：876トン</p> <p>・質の高い食料支援を行うために必要な食品寄贈重量：1751トン</p> <p>と試算される。この数値を念頭に、事業終了時の数値と終了後の展望を明確にする必要あり。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

<p>①食品の収集量を一層増やす</p> <p>中核FB及びFP団体、地域FB団体全体の取扱量（年間合計）400トン（＝中核FB 250トン＋地域FB 150トン）</p> <p>・中核FB（自団体）の年間食品取扱重量（子ども食堂やパントリー、地域FBへの提供量含む）：250トン（企業175トン、個人75トン）</p> <p>その内、中核FBからFP・地域FB団体に提供する食品重量（年間合計）：150トン</p> <p>年間の延べ寄贈企業数：583社</p> <p>食品寄贈企業1社あたりの寄贈重量：0.3トン</p> <p>・中核FB団体からの提供を除き、FP・地域FB団体全体で独自に集める食品重量（年間合計）：30トン（＝15団体×2トン）</p> <p>・1FP・地域FB団体あたりの食品取扱重量（年間合計）：10トン（×15団体＝150トン）</p> <p>内訳）1FP・地域FB団体あたりの食品取扱重量（年間合計）：8トン</p> <p>内訳）1FP・地域FB団体が独自に集める寄贈食品重量（年間平均）：2トン</p>

- ・今年 12 月に完成予定の山梨フードバンクセンターの新たな機能（収容能力増加、冷凍・冷蔵品の取扱い量増加、等）の活用や、地域 F B の自力での食品調達力強化の支援、フードドライブ活動の一層の強化などを通じて、不況下にあっても安定して必要な食品を確保できる体制の充実を図る。
- ・具体的な支援事例を紹介し、市民一人一人がフードバンク活動を自分ごととして捉えられる様に広報する。

②県下各地にバランスよく地域フードバンクを増やす取り組みに注力する

- ・県内の協定締結市町村数を着実に増やすとともに、それが難しい市町村については地域 F B の設立や充実のための支援に一層注力することにより、フードバンク山梨と各地域の F B が連携して食品の調達や分配、配送、相談支援等を行える体制を強化充実する。
- ・自治体との連携では、数を増やすことと共に、すでに連携している自治体首長と教育長との懇談を進め、連携する内容の見直しと充実を図る。
- ・より細かいところに支援の手が届くことが大切で、啓蒙活動が必要である。
- ・地域フードバンク団体にできる事と、フードバンク山梨にできる事の役割分担を明確にする必要がある。
- ・「フードバンクのつくりかた」セミナーを開催し、地域フードバンクのイメージを明確にする。熱意と実行力のある方に地域フードバンクを担っていただきたい。

③ファンドレイジング活動では、個人・法人寄付額 4,009 万円が必要

- ・物流拠点にかかる寄付がなくなることを想定すると、現状の 3000 万円→4000 万円への増加が必要

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）



2022年7月15日 活動報告会



以上です